

# 関東ロームで土器は作れるか？

檜木 芙美香 野田 まりし 本多 未奈 吉川 來春  
東京都立戸山高等学校 SSH 探究基礎 1 学年

## 1) 動機・目的

城ヶ島で観察した関東ロームについて調べたら「一部粘土化した火山灰層」とあった。粘土が含まれるなら、土器が作れるのではないかと思った。

## 2) 研究内容

狭山自然公園(多摩ローム)と赤塚溜池公園(武蔵野ローム)で、粘土化の程度が大きいと思われるもの、小さいと思われるものを採取。指標を作製し、土器作製が可能な土があるか調べた。

\* 次の特徴について観察した。

- i 作製段階での土の収縮率
- ii 焼成後のひびの有無
- iii 指標の崩れやすさ
- iv 縄文土器を標準として類似の特徴をもつか

・ 粒子の割合、生地の硬さ、粒子の種類



比較対象とした縄文土器  
(馬場小室山遺跡 縄文時代中期～晩期)

## 3) 結果・データ

焼成した指標を観察項目ごとに「適」の状態と比較した結果は表1のようになった。

[表1]



特徴	適の状態	多②	武⑤	多三	武四
収縮率	大きい	○	○	×	△
ひび	なし	×	○	○	○
崩れ	崩れない	○	○	×	×
粒子量	多い(縄)	△	△	×	×
生地	密(縄)	○	△	×	×
硬さ	硬い(縄)	○	△	×	×

A001-P022

会場：ポスター会場

時間：5月17日 9:00-17:00 (コア：13:45-15:15)

注：適の状態の(縄)は観察した縄文土器の特徴

注2：②⑤は粘土化している

多②は縄文土器に一番近く、武⑤は土器として優れている。